

平成23年度 【 学園研究費助成金<A> 】 研究成果報告書

学部名 人間関係学部

フリガナ スギトウ シゲノブ
氏名 杉藤 重信

研究期間 平成23年度

研究課題名 梶山歴史文化館所蔵資料のマルチメディアアーカイビング

歴史文化館ホームページ <http://www.sugiyama-u.ac.jp/mshc/>

研究組織

	氏名	学部	職位
研究代表者	杉藤 重信	人間関係学部	教授
研究分担者	飯塚 恵理人	文化情報学部	教授
研究分担者	福永 智子	文化情報学部	教授
研究分担者	三木 邦宏	現代マネジメント学部	准教授
研究分担者	小倉 祥子	人間関係学部	准教授
研究分担者	阿部 順子	生活科学部	准教授
研究分担者	宮下 十有	文化情報学部	専任講師

1. 本研究開始の背景や目的等 (200字～300字程度で記述)

梶山歴史文化館（以下、歴文館）には、「雛形」をはじめ、本学の歴史を記録する映像記録や文書資料、発行物など多数の資料が収蔵されている。その一部は、デジタル化を終え資料整理が進行中である。しかしながら、統合的なマルチメディアアーカイブの構想はできておらず、本研究を契機として地域貢献と自校教育のバックボーンとしての歴文館デジタルアーカイブを構築することが肝要であると思われる。

本研究では、「デジタルアーカイブ研究会」を平成23年2月に発足、本格的にマルチメディアアーカイブ構築を行うこととした。

2. 研究方法等 (300字程度で記述)

各自の専門分野における資料収集、情報収集を行った。
成果として、年度末に歴史文化館における特別展を実施することとした。

3. 研究成果の概要 (600字～800字程度で記述)

今年度研究会は諸般の事情で、研究会を開催する機会が少なく、成果としては、歴史文化館の特別展を上げておきたい。

今回の特別展は「モノとデジタルアーカイブ～その現実と実際」と題して、歴史文化館の収蔵品を中心にデジタルアーカイブの可能性と本学における実現の必要に焦点を当てて、3月28日から6月28日まで開催することとした。そもそも、デジタルアーカイブ研究会は、歴史文化館の専門委員から企画されたもので、当初から特別展との連携が意識されていた。

展示スケジュールとの関連で年度末に押し詰まって展示が行われるので、成果発表の当日は、展示作業の最終段階である。もし、時間があれば、ぜひ、展示作業をごらんいただき、この成果を見聞していただきたい。

4. キーワード (本研究のキーワードを1以上8以内で記載)

①デジタルアーカイブ	②自校教育	③博物館	④文化資産
⑤	⑥	⑦	⑧

5. 研究成果及び今後の展望 (公開した研究成果、今後の研究成果公開予定・方法等について記載すること。既に公開したものについては次の通り記載すること。著書は、著者名、書名、頁数、発行年月日、出版社名を記載。論文は、著者名、題名、掲載誌名、発行年、巻・号・頁を記載。学会発表は発表者名、発表標題、学会名、発表年月日を記載。著者名、発表者名が多い場合には主な者を記載し、他〇名等で省略可。発表数が多い場合には代表的なもの数件を記載。)

研究成果の一部として、椋山歴史文化館において特別展「デジタルアーカイブ展」を行う。椋山歴史文化館資料のデジタルアーカイブ化の道程のひとつとして、データベース構造の策定を行い、展示品とデータベースの関連について一般に理解を深めることができるよう展示を行うことを目的とする。

あわせて、椋山女学園の歴史にかかる収蔵品の一部を展示する。特に、旧家政学部の手作り実験器具の展示、および、人間関係学部の25周年にあたり、創設当時の心理学実験器具の展示に焦点を当てる。また、既存のデジタルアーカイブ化された資料、雛型および創設者椋山正式の残した掛軸コレクションについてもデータベースと関連づけて展示を行う。